

作品に見る児童の世界

校内の定期的な掲示物の入れ替えで、いつも次回作を楽しみにしている場所が三か所あります。そのうちの一か所が、小学部3年生と4年生のフロアです。足を止めて子どもたちの作品を鑑賞するのが、私の楽しみの一つです。ただ単に鑑賞をしているのではなく、例えば、児童の絵の描き方にも、一人一人の発達の様子を知ることができるので、いつも最後は成長への感動や嬉しさが勝っています。

描画材料を手にとって紙の上で「描く」という行為について、感覚と運動の発達過程の側面からは、次のように現れると一般的には言われています。

- 『なぐり描き』をする。最初は、紙を叩くように『点』を打ち、その音を楽しむ。その時、偶然に手が動いて『短い線』が紙に映ると、それを意図的に繰り返し、紙面にできる『弓形線』や『横線』、『縦線』を描いて楽しむようになる。
 - 『左右往復の横線や縦線』が加わる。何か(誰か)を思い浮かべ、線や形に意味を持たせて楽しみ始める。次第に『渦巻』のような形が出現する。
 - 『円環』が加わる。ことばの発達と重ねて、描いた「円環」に意味(「これはパパ。これはママ」等)を付ける行為が加わる。たくさんの『複重円(円を重ねる)』を描いて伝えるようになる。『終結した円』を描き、目や口を認識し、顔を描く様子も見られるようになる。
 - 目、手、足を左右対称に表現するようになる。頭足人※を描くようになる。
- (後略)

※ 顔から直接手足が生えたような人間の絵のこと。文化に関係なく世界中の子どもが共通して描く表現。

このように絵を描くこと一つとっても、個々の発達段階や育ちの方向性を見据えて授業を組み立てることが大切です。このことは、「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」にも、「各教科等と自立活動の指導内容との関連を図り、両者が補い合って、効果的な指導が行われるようにすることが大切である。」と書いてあります。

小学部3年生と4年生の図画工作の授業では、題材は共通でも、個々に形や色に豊かに関わらせる上で、先生方の“まなざし”が、児童一人一人の発達段階や育ちの方向性にも向けられているので、大変すばらしいと思いながら鑑賞をしています。

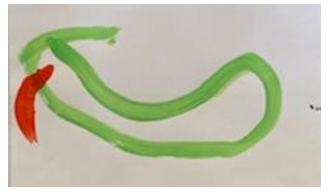
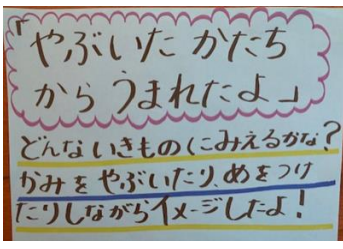
芸術の秋。「虹のまつり」と一緒に、「虹の美術展」も楽しんでほしいと思います！

『令和7年度 学校経営方針』で、今年度の重点取組事項の一つに「④児童生徒の特性に配慮した個別最適な学びの実現」を掲げています。

「聞く力」、「創る力」、「繋がる力」を大切にして魅力ある虹の原の教育を展開する

- 「R7年度 学校経営方針」でめざす！ -

小学部3年生と4年生のフロアより(一部を掲載)

 個々の発達段階の把握	 点々から短い線へ	 弓形線から左右往復の線へ
 左右往復の線から渦巻様へ	 渦巻様から円環へ	 円環から複重円へ
 麒麟を思い浮かべて線や形に意味を持たせて描く	 色と形を合わせて描く (色と記号の対応)	 個々の育ちの方向性や可能性
 タイトル「せんせい」	 サメ肌を段ボール波部分で	 垂直・水平に組み合わせて
 月は上(空)、ウサギと三方は下(地)	 月を見上げる⇔首・目の向き	 先生方の“まなざし”が大切